

## 荒川三山～赤石岳～聖岳～茶臼岳縦走

2013年8月16日(金)～18日(日)

小池 M (単独)

### 8/15

打込谷へ行く磯部さん達と別れ、一人畑薙ダムへ向かう。カーナビ頼りでどこを走っているかさっぱりわからなかったが、0時30頃目的地の臨時駐車場に着く。疲れていたので買ったビールも飲まず仮眠しようとしたが、蚊の来襲であまり寝られなかった。

### 8/16

#### 榎島08:10発—千枚小屋12:25着

東海フォレストのバスは8時が定刻だが、臨時が出るのではと皆が並んでいるのでつられて並ぶ。バスは7時に来たのでそれに乗り、榎島に8時頃着く。バスの中で家にストックを忘れきたことに気づく。普段であれば何の問題も無いが、今回はツエルトのポール代わりに使おうと思っていたので、代用が無いかと見回し、使い古しの木の杖が数本あったので、その中から手に馴染むやつをパートナーに選んだ。

千枚小屋までの道のりでは、標高が低く気温も高いせいもあり、最近の怠惰な生活で蓄積した汗が全て吹き出てきた。12時半頃、千枚小屋に着いたが、へろへろでとても先に進む気にはなれず、早々にツエルトを張る。今回、水以外は無補給でと考えていたが、あまりの暑さにビールを買ってしまう。昨日の寝不足もあり、あとはのんびり過ごした。

### 8/17

千枚小屋01:50発—千枚岳02:25—悪沢岳03:25—中岳—前岳—荒川小屋05:10着(05:30発)—赤石岳07:10—百間洞小屋08:45着(09:10発)—兎岳11:40—聖岳13:20—聖平小屋14:30着

ツエルトを畳んで朝2時に出発する。早く出発する理由は二つ。一つは出来るだけ涼しいうちに行動するため、もう一つは午後の雷のリスクを避けるため。真っ暗なうちに千枚岳と荒川三山を過ぎ、荒川小屋に向かう頃、夜明けを迎える。真っ暗の頂上じゃ眺望も臨めず意味が無いと思われるかもしれませんが、何も見えなからこそ感じられるものがあり、山との強い一体感を得られます。荒川小屋で大休止し、赤石岳へ。



(赤石岳から荒川三山)

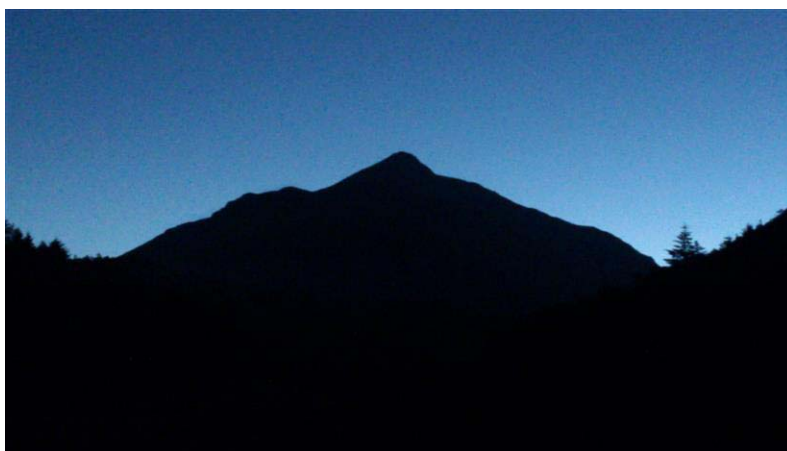
十数年前、東京の山岳会で南アルプスが大好きな先輩と正月に三伏峠から聖岳まで縦走したが、よく冬に歩いたななどと感心しながら、頂上を超え百間平を過ぎ、百間洞小屋に着く。足には結構疲労が来ていたが、時間が早すぎるので、二回目の大休止を取った後、聖岳に向かい歩き始める。このあたりは標高的にも時間的にも暑さが最高潮だったが、とりえず最悪コースタイムペースで歩けばいいやと楽観的な考えで歩を進めた。聖岳13:20着。早くテント場に着いてのんびりしたかったので、頂上では休まず早々に下る。聖平小屋までいっきに下ろうと思ったが、そういう訳にも行かなかった。

聖平小屋のテント場でツェルトの張りやすそうな場所を探していたら、東京の知り合いに会う。隣にツェルトを張り、あとは宴会。

## 8/18

**聖平小屋02:00発—上河内岳03:50—茶臼岳05:15—登山口08:30—駐車場09:40着**

この日も2時出発。上河内岳までは風とガスで少し歩きづらかった。頂上は真っ暗だったが、空は満天の星空。茶臼岳へ向かう途中でライトの電池が無くなる。今回の山行前に電池は新しいものに入れ替えていたが、道がわかりやすいようにとずっと明るいモードにしっぱなしだったので、やむを得ない。明るくなり始めたので、湿原状のところまで明るくなるまで休憩を兼ねて少し休む。上河内岳のシルエットが美しい。枕草子の一節「春は曙。やうやう白くなりゆく山際、すこしあかりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる・・・」が浮かぶ(春じゃないけど・・・)。



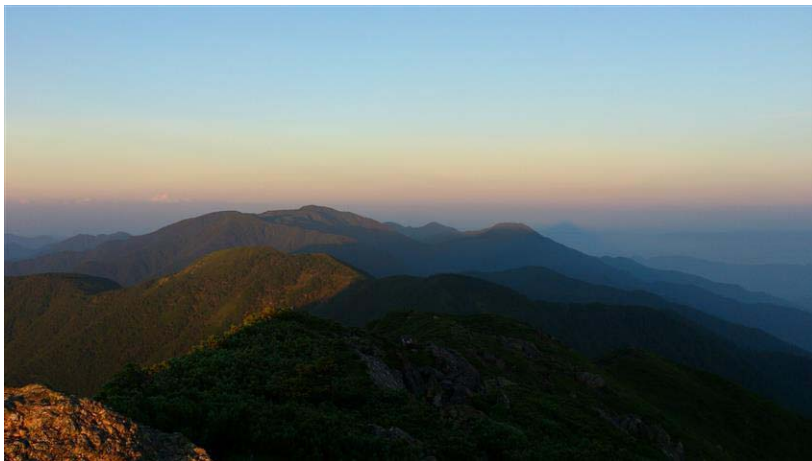
(湿原地から上河内岳)

もうすぐ茶臼小屋への道との分岐というところで、どっかで聞いたガーガー声を耳にする。こんなところにいるのかなと思いつつ見回すとアイツはいた。雷鳥だ！今まで目にしなかったの、こんな南にはいないんだろうと思っていた。大発見！かと思ったが、あとで調べてみるとイザルヶ岳が南限だそうです。

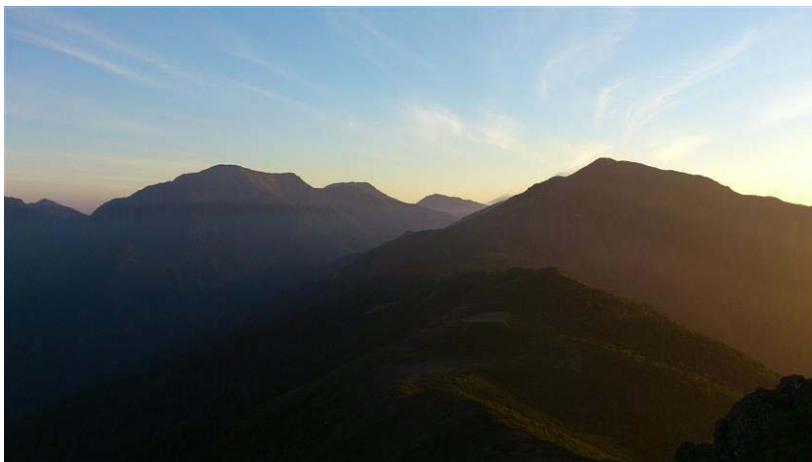


(中央に左を向き尻を向けているアイツ)

茶臼岳から見た光岳方面はまた違った美しさがある。次回はここにと目に焼き付ける。あとは下るだけだとひたすら下り、足が棒になるころ登山口の長い吊り橋に着いた。あとはとろけそうな暑さの中、駐車場に向けて退屈な林道をたどった。



(茶臼岳から光岳方面)



(茶臼岳から聖岳方面)